

私小説から幻想小説へ――

ワタシト、
ワタシノ
セカイ

2016
10/15 [土] ~ **12/4** [日]
9:00~17:00 (最終入館16:30) 会期中無休

小田原文学館

〒250-0013 小田原市南町 2-3-4 tel. 0465-22-9881

主 催: 小田原市立図書館 tel. 0465-24-1055

題字は牧野信一自筆文字より作成。写真は牧野信一、挿絵は「ゼーロン」より転載。

小田原文学館特別展 生誕120年記念 「牧野信一」の心象風景

牧野信一の
心象風景



記念講演会開催

「幻想文学としての私小説―牧野信一の世界」

11月6日(日) 13:30



矢野 利裕

講 師 矢野 利裕 (批評家)

会 場 国際医療福祉大学
小田原キャンパス

参加費 無料

※詳細は裏面をご覧ください。

小田原文学館特別展 生誕120年記念

牧野信一の心象風景

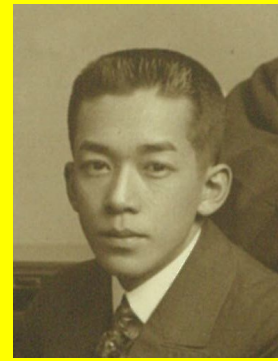
大正・昭和を駆け抜けた夭折の作家・牧野信一(1896-1936)は、幻想的な作風の一連の小説群を発表し、文壇に独自の境地を拓きました。

牧野は、初期に発表した「爪」(大正8年)が鳥崎藤村に激賞され、以後、「父を売る子」(大正13年)、「悪」の同意語」(大正14年)などの父や母をテーマとしたセンセーショナルな内容の作品群を発表しました。しかし、昭和初年以降は作風を転じ、この時期発表された「吊籠と月光と」(昭和5年)、「ゼーロン」(昭和6年)、「バラダ物語」(同)などの郷里小田原の土地や人をモチーフにした一連の作品群は、明朗で異国的な作風を特徴とし、その独自の世界観をして「ギリシャ牧野」と称されます。

父母をテーマにした「私小説」から郷土をモチーフにした「幻想小説」へ。ダイナミックともいえるこの転回に一貫性を見出すとしたら、そこには「わたし」とわたしを取り巻く「身近なるもの」への絶え間ない関心という、現代のかつ普遍的なテーマが浮かび上がってきます。

牧野信一の生誕120年、没後80年を迎える本年、牧野文学の源泉となった小田原で、自筆原稿や写真などを紹介します。

小田原文学館で牧野信一の心の風景を眺めてみませんか。



MAKINO
牧野
Shinichi
信一

小田原出身の作家。明治29年に旧小田原藩士の家に生まれる。小田原中学校を経て、早稲田大学英文学科を卒業。代表作には「爪」「父を売る子」「ゼーロン」「バラダ物語」「鬼涙村」などがある。同人誌は、大正8年に浅原六朗らと「十三人」、昭和6年に小林秀雄や河上徹太郎、坂口安吾らを集めた「文科」などを創刊したほか、鈴木十郎(のち小田原市長)主宰の「金と銀」に参加。稲垣足穂や坂口安吾、井伏鱒二など後進の才能を見出し、文壇の立役者としての役割も果たした。昭和11年自死。

写真は「時事新報時代」(部分)大正8年頃小田原市立図書館蔵



牧野信一宛葉書(父久雄より、明治38年)
小田原市立図書館蔵



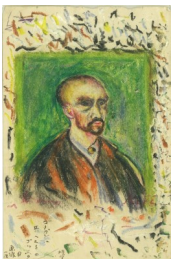
「十三人」創刊号
小田原市立図書館蔵



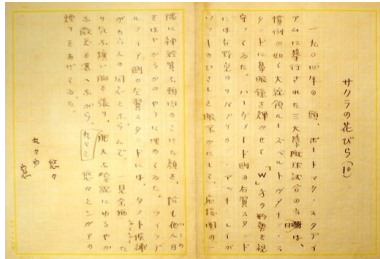
牧雅雄《牧野信一像》
小田原市郷土文化館蔵



「小田原海岸にて」(中央牧野) 小田原市立図書館蔵



宇野浩二筆《ゴッホの自画像模写》
小田原市立図書館蔵



草稿「サクラの花びら」 小田原市立図書館蔵

展覧会関連イベント

●記念講演会「幻想文学としての私小説—牧野信一の世界」

開催日 11月6日(日)
時間 13:30~15:30頃(受付開始13:00)
講師 矢野 利裕(批評家、第57回群像新人文学賞受賞)
会場 国際医療福祉大学小田原キャンパス
費用 無料
定員 140名(先着順)
申込 11月5日(土)までに氏名・住所・電話番号を明記の上
小田原市立図書館にメールまたは電話にて
電話 0465-24-1055(小田原市立図書館)
メール tosho@city.odawara.kanagawa.jp(同上)



矢野 利裕



●学芸員による展示解説

開催日 10月22日(土)、11月11日(金)、12月4日(日)
時間 11:00~/13:30~(各日2回)
場所 小田原文学館本館1階展示室
費用 無料(要入館料)
申込 不要

旧田中光顕別邸・国登録有形文化財

小田原文学館

小田原市南町2-3-4
tel.0465-22-9881

問合せ 小田原市立図書館 Tel.0465-24-1055



入館料 大人250円、小中学生100円
(団体/障害者手帳をお持ちの方割引有)
アクセス・小田原駅東口から徒歩20分
・小田原駅東口から箱根方面行バス
H/T/J/Z/U線「箱根口」下車徒歩5分
備考 駐車場7台・無料

